

## ◇ 平ヶ岳・会津駒ヶ岳・帝釈山・那須岳

2018年7月1日(日)～7月5日(木)

岡本単独

北海道山行が中止になった為、急遽平ヶ岳方面へ行くことにした。1日目は、北陸道経由で魚沼市、奥只見湖銀山平、樹海ラインを通り、尾瀬の裏側の尾瀬御池ロッジまで行く。樹海ラインからの奥只見湖の景色は少し期待外れだったが、それより曲がりくねった道と、暑さが応えた。山奥で、標高850～900mなのに、30度前後の気温なのだ。途中、平ヶ岳の登山口を確認、そこからロッジまで約20分。快適性等考えると、清四郎小屋などに泊まる必要性は全くない。今日はゆっくり温泉に入り体力を温存する。

2日(月)、朝4時20分ロッジ発。この時間で十分明るい。20分ほどで登山口に到着、準備をして4:55登山口を出発。早朝と言うのに涼しさは殆ど感じない。暫く林道歩きをし、尾根に取りかかる。少し樹林帯を行くと、カンカン照りの急なやせ尾根が、標高差で約700m続く。朝日が直接脳天に照りつけ、風も殆どなく、蒸せた空気で、兎に角暑い。4Lの水分がどんどん減る。



(朝からかんかん照りの尾根)

2時間ほどで下台倉山に着く。ここからは池ノ岳の登りまではだらだらした尾根道が続く。一部樹林帯の入る箇所もあるが、殆どが展望の利く尾根ルートだ。しかし、今日は日照りと蒸せた無風状態の為、この展望の良さもあだとなる。



(尾根ルートから巒岳)



(正面左平ヶ岳、右池ノ岳)



(中央の低い山景鶴山)

池ノ岳の登りは、標高差約200mの岩尾根で、展望も良く、風も少しありきついものの、気分的にはほっとした感じがする。登り切って少しハエマツの中を行くと突然目の前に池糖が広がる。ここから平ヶ岳方面は、池糖の高原とお花畑(たいした花ではないが)の続く優しい山の景色になる。少し休んでから平ヶ岳を目指す。

平ヶ岳の山頂は名前の通り平たくどこが山頂か分からない山だ。尾瀬を眼前に望める展望所の裏のハエマツの中に三角点がある。そこから高原状の草原と池糖のあるところを暫く行けば山頂の一番高いところに着く。景色としてはこちらの方が良い。少し風もあり、大パノラマの楽しめる中々良い場所だ。少し休んでから池ノ岳へ戻る。ここで行動食を取り下山に掛かる。



(平ヶ岳三角点)



(池ノ岳地糖)



(池ノ岳から見た平ヶ岳)



(平ヶ岳最高点から左中ノ岳、右越後駒)

下山時、水は1L程しかない。陽はガンガン照りつけ、風も殆どない。普通に水を飲んでいるととても足りないので、ゆっくり目に歩き、陰があれば少し休み体温調整しながら歩く。遠くの方に入道雲は見えるのだが、風も雨も来ない。何とか200cc程の水を残し、下台倉山まで来る。後は下りだけなので、この水で標高差700mを上手く配分する。漸く、雲が掛かり少し風が出てきたときには、樹林帯まで来ていた。登山口に着き、車に積んである水を1L近くのみ、漸く落ち着く。兎も角暑い日だった。

(行程) 4:55 鷹ノ巣登山口→6:45 下台倉山→8:25 白沢清水→9:30 池ノ岳→10:00 平ヶ岳 (15分休) →10:45 池ノ岳 (10分休) →11:45 白沢清水→13:40 下台倉山 (10分休) →15:35 登山口

3日(火)、会津駒ヶ岳を目指し、4時半頃ロッジを出発。5時過ぎに登山口に着き、5:20出発。最初少し階段を上り、そこから樹林帯の中の道が続く。樹林帯でもあり風は殆どないが、この地域は昨日夕立が降っており、涼しさを感じる。道もよく整備されており、昨日に比べると全然歩き易い。所々木々の隙間から景色の見える時もあるのだが、ガスも垂れており良い展望は望めない。

歩き始めて2時間程、樹林帯が途切れ遠くに駒の小屋が見える。その先には会津駒ヶ岳がうっすらと見える。この辺から所々高山植物や池糖が現れる。暫く木道が行くと駒の小屋に着く。少し休み、山頂を目指す。池糖横の木道を進み、階段を登り切ると中門岳との分岐にでる。分岐で木の階段の続くコースを取り、少し行くと山頂だ。山頂には標識の他パノラマガイドがあるが、藪や木が邪魔になり展望は利かない。証拠写真だけ撮り、中門岳へ向かう。



(森林限界付近から駒の小屋)



(池の平から正面会津駒ヶ岳)



(会津駒ヶ岳山頂)

中門岳へのコースは、なだらかな高原状の草原道で、所々残雪と池糖がある。こちらの方が眺望もよく、花や残雪も楽しめ、景色という点では駒ヶ岳より中門岳の方が上だ。中門岳の標識より少し北側に、最高点の池糖のある平らな草原がある。ここで朝食代わりにのおにぎりを食べ、景色を満喫する。人も全くおらず暫くのんびりする。



(駒ヶ岳から見た中門岳への尾)



(中門岳山頂付近の池糖)



(中門岳の最高標高付近)

あまり早く下山しても仕方ないので、駒の小屋までゆっくり戻る。暫く続くお花畑や池糖を眺めながら、やがて樹林帯に入る。後は見るべきものもないので、登山口まで一気に下りる。が、駐車場でまだ正午前、旅館にチェックインも出来ないので帝釈山を目指す。

(行程) 5:20 登山口→6:30 中間ベンチ→7:45 駒の小屋→8:10 駒ヶ岳山頂→8:50 中門岳 (25分休) →9:55 駒の小屋→10:50 中間ベンチ→11:45 登山口

帝釈山は、明日、田代山とセットで行く予定であった。しかし、明日以降の天気と、田代山湿原は平ヶ岳と中門岳の湿原で楽しめたことから、帝釈山だけにすることにした。で、一番楽に登れる帝釈山登山口、馬坂峠を目指す。峠は、檜枝岐村から少し尾瀬に戻ったところから入り、距離 15 km 程、標高差 1,000m 強の砂利道で、結構時間が掛かる。登山口の標高、1,780m、山頂 2,060m なので、これなら会津駒ヶ岳の後でも楽勝だ。



(帝釈山山頂)

標高差 280m を一気に上るが、謳い文句の大きな展望はガスのため見えない。山頂は少し風もあり、気分的には良いところなので、少し休み、それから下山する。旅館に着けば午後 4 時前で、丁度良い時間帯で、チェックインして風呂で体を休める。

(行程) 13:15 馬坂峠登山口→13:55 帝釈山山頂 (15 分休) →14:40 馬坂峠

4 日 (水)、午前 5 時出発、那須高原を目指す。道の状態もよく、2 時間強で那須ロープウェイの少し上にある峠の茶屋の大駐車場に午前 7 時過ぎに着く。駐車中には車は 3 台、茶屋も休みである。那須岳は、以前ロープウェイで山頂駅まで行って、そこから茶臼岳に登っただけであり、百名山の一つに登ったと言うには若干の引け目を感じていた。今回、歩いて茶臼岳と三本鎗岳に登ることで、胸を張って那須岳に登ったと言えようになる。

登山口は、山の神の鳥居から始まり、よく整備されたコースが続く。暫く歩くと、火山の所為か、すぐに森林限界を過ぎ、右に朝日岳を眺めながら火山岩の道に行く。すぐに尾根にある避難小屋が見えてくる。天気はイマイチで、小雨が降ったり止んだりだが、今日は風もあり、少し寒いくらいの天気だ。避難小屋で少し休み、茶臼岳に向かう。

茶臼岳への道は、幅の広い岩石道で、ガスや雨があれば迷い易いようなコースだが、さすがに那須岳、コースの整備が行き届いていて安心して歩ける。茶臼岳の山頂に着くも、ここまで誰も人はいない。風が強いので、証拠写真だけ撮り、すぐに三本鎗岳に向かう。ここで初めて人に会う。



(茶臼岳山頂)



(尾根ルートから見た茶臼岳)



(清水平付近のシャクナゲ)

天気も徐々に悪くなるが、寒さも風も大したことないので、時間つぶしのつもりでのんびり歩く。岩場とガスと高山植物、気分的にはアルプスを歩いている感じだ。人も全くおらず、ペースを乱されることもなく朝日の肩に着く。朝日岳へは 5 分程度で行けるが、景色もあまり見えないので先に三本鎗岳へ行くことにする。1900m 峰を過ぎ清水平に着く。時間が余るのでここで朝食代わりのおにぎりを食べる。

出発するも、依然として静かな山道だ。もう 7 月だが、まだ所々にシャクナゲが咲いている。そうこうしているうちに三本鎗岳に着くが、景色は何も見えない。風も強くなってきたので、適当に休み引



(北温泉分岐付近から三本鎗岳)



(三本鎗岳山頂)

き返すことにする。ここで漸く 2 人目の人に出会う。

風が更に強くなる。のんびりも良いが、体が冷えてもいけないので、適当な速度で歩く。朝日岳はガスで全く見えなくなっており、結局素通りすることにした。避難小屋で少し休んで、そして下山。少しアルペン的な気分も楽しめ、意外に楽しい那須岳でした。

(行程) 7:15 峠の茶屋→7:50 避難小屋→8:20 茶臼山 (15 分休) →9:00 避難小屋→9:30 朝日の肩  
→10:00 清水平 (15 分休) →10:50 三本鎗岳→11:45 朝日の肩→12:50 峠の茶屋